

河内國名所鑑序

河内國皇神系天皇東征一多つる時序年  
の歲春三月乙丑の草香の里にいつりたすひ  
彦己尊<sup>ひこみ</sup>保理命<sup>たもりのみこと</sup>とれ河内<sup>かみのち</sup>のあたをわつこととれ  
たつる事聖德太子の旧事記ふとされハ河内の  
名取よ人皇のたうありとさ反正と皇と中  
元乙未十月癸酉のまよ教一とつらみ  
此書は教うつるありとわたりと日本記  
は元乙未十月癸酉の御宇に諸國乃



里の名をさしめぬ日々に河内のおお泉と  
うその野の國かりしと元正天皇の靈祚四年  
四月甲子の日大鳥日根お泉との郡を割て始て  
お泉の玉とあされ方う一聖廟の類聚國史より  
のせられ延喜の氏式より大伴那石川等より  
て十四郡とさゆその中に丹波と分て丹南  
丹北とせと深の頂のお名集にあらしとてうの  
庄郷のお名具にのまるといふも後世に  
増加すおの名あをてつとてかうに諸社誌

寺の來歴中緒誌書に及てて事亦あをて  
いひてかや一國志紀那柏東の里と因氏津久  
丹波のよりいよとて中をとりてうの來  
由はあらしとて河内にお名所鑑をかりきてとて  
は梓とえりて世にたふとんとて帯にといひ  
席はくしとてしとてえ明と皇のお鋼年  
仲ふ風土記とつとてわの日のお六十余國  
の郡郷れゆ寺社のおより番とてとてあ  
さるしとてと或は秘とていふれ或は久しきにちり

うせり今の世にわき雲を暮らる風を記さるる  
 のこわり河内の風を記さるるやまんいさき  
 をとひありとらりもよ右の記のみさる  
 う中台の東の岡より下事いさるる  
 こと田氏の岡小切ありこと鉄の蓋むか  
 こころりもくれ方もあるることくめん  
 うこといさるる席と延寶七年卯月  
 亦二日海下の季也

河内名所記

石川郡分

金剛山

葛城山

耳南彼

千早塚

依徳妙見寺

下赤坂

竹首

甲元坂

河内親善寺

若林

中村

屏風塚

百回

出合

龍泉寺

丁木戸口

毛人谷

酒堂寺

富田林

團丸城

菊井

猫谷山

若山

本見山

上ノ赤坂

楠正成石塔

敷ケ尾

多越峠

水分神社

久分寺

小分越寺

河野寺西福寺

小別井

大伴

東西桑落合河

石川

白木観音寺

平石塔池

小加納法花寺

梅川

苗加納

古田

大ヶ塚

芥生若

馬谷

本梅屋

津山

东条川

寛弘寺

日出月光の寺

中津原

小吹草花寺

菖蒲ヶ堂

観心寺 是ハ綿糸郡也

一須賀

山城

杉ノ尾

弘川寺

畑村

之貴寺 附畠田外

新堂

西米ヶ池

新志橋井

下水分神社

金剛山

これ金剛山は天和河内西國にありて名山なり  
法本志にりかばきこの神とてちおそりて山  
れ神ありてまじくもてせりて後乃初者孔雀の玉冠と  
拍又たれきふのり仙府に優遊一園より許の山に  
く鬼神とてく眷属とてく法山と開さるる  
中にいひ葛城山は元初小入開闢とてまじく本堂は  
南にさ本堂は法華菩薩不動の玉冠王持現世をい  
ほくさかたのりて花崗の文は於南海中有一淨土名  
金剛山法紀菩薩常在說法とてまじくあり五眼六臂  
とて海よりなりてまじくありてありてありてあり

三川小さんこまいり右の山に三蓮花又結矢と  
もらふ山長一丈余あり又教とちりありてあり  
かありて毎月うのり縁日に系りありてあり六月七日  
あんの約者とてうのりひよるれなりてん葛城七丈  
金剛童子則是也いひありてく本堂乃積摩の約ひる  
徳人系清乃冠集とてありてく女人のつらひれ也  
大悪堂ありて三十八社ありて園伽井ありて六切ありて  
山とていひ一衆山とていひ寺号は持法橋とてありて  
上樂院大目れ瀧ありて  
酒堂ありて本堂より千八町成美の方也ありてありて  
千早乃城は本堂より千八町いりてありてありてあり

水乃りありて本堂へ六十六町  
表の村ありてありて七十八町あり

表の村あり

ね奇

法橋奇哉又

老れ身も金剛山へはほくはくさかきりて杖をたて

日

貞室

長孫ははくいさつて驚らん色あはれせんもそのたけ

日

友和

よりえく金剛山よりふりしむ六胎産いといふと云

日

每雄書

塵はゆるいふてありあつて控はよわきかえれば候ふも守

日

系音

長保がり金剛山ぬく日におるやうなれりく

日

一有

地は天風雲よよそくはかきりて月と又つるの月

日

可清

高くそひそ木れ葉葉黄くはけり光や金剛子木を寄

日

正音

植ふはきかきりて橋のさあつて金剛せんはちりあつて

日

清風

金剛山よりあつてしてしむは日にはりてのりすひあつて

日

梅翁

山れ名の金剛童よりちこ梅

日

正信

小方や金剛せん沖の海はるの死

日

一志

雲よりあつてしむは日にはりてのりすひあつて

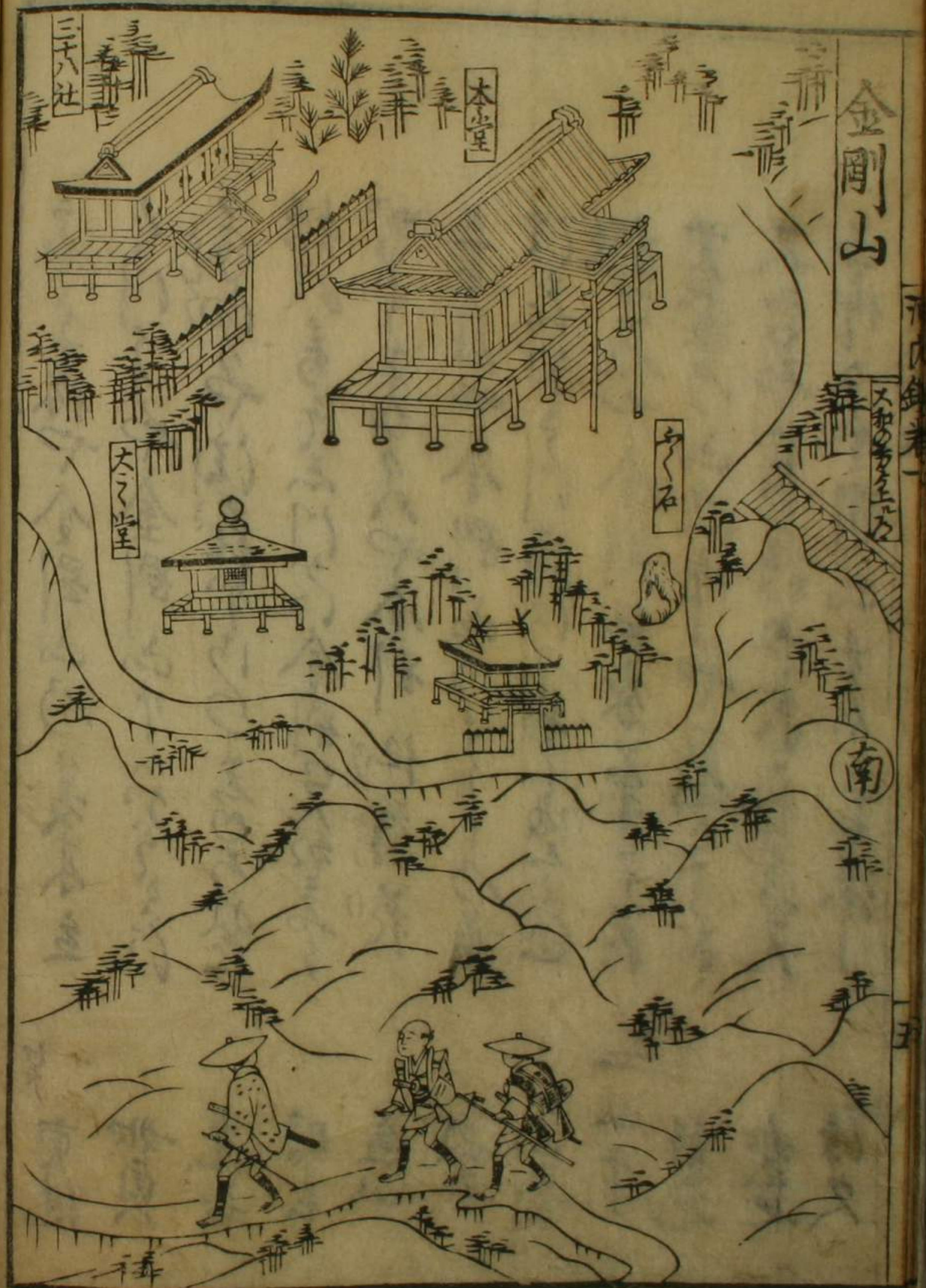
とくえつりう雷や水方り金剛山  
みとわりの門書や喜面金剛山  
花乃咲本育の祥や金剛山  
風よらうり金剛山乃花あはれ  
まよわくとも咲や金剛山人の花  
木うり花と出まや金剛山人の術  
花とふむる金剛山乃まはり  
花乃河く下や金剛山人貴目  
花あはれ金剛山通くまはる  
金剛山人懐別やこの花乃友  
山吹かみ花れ花や金剛山

業貞  
葦葉  
正威  
清次  
正之  
清勝  
聖法  
友好  
久任  
如和子  
安求

高き森や金剛山乃まはる  
く門うりや金剛山かみわらう  
手向や法書がしりまはる花  
蝶れ書そ志門の金剛山人花  
わらうり久や金剛山人花  
三ヶ月や金剛山乃うり角  
法書がしり月におく海をよむ  
振らぬや金剛山人花  
葛城乃山れ綿や鬼うり  
大雪や足りはめまはる  
正祈り金剛山かみ雷佛

重継  
如貞  
光善  
時表  
立以  
政云  
正音  
一十  
賢也  
樂也  
清久





千早城 下の赤坂に城あり千早城より六十町余あり

○楠正成 城跡也東の三方六十町西の三方六十町

南の三方六十町北の三方六十町城長百六十五間成

實より辰巳のわ城に根まのり九百一十間あり

秘水あり一日三石六斗あり

楠正謀は諸軍の軍勢をありて合戦とありてついで城とありて

とそいふもんでや歴とあり人言傳のありまのふかき

相奇 清風

楠や千早れ城小こもり居く種くつらるやと鳥く人形

いふは乃授松のりかこりさく子早れ城に越や雲火

相奇 友和

子早やうさ城ありといふ楠れまう志をりつ今も清風

曰 友和

武去れそのり名をくらに楠ハ千早乃城れを志石とかな

曰 友和

めがくはましてうさ城ありといふ山れ志はれらてりやうさ

曰 友和

子早振神れ秘水ありといふ山れ志はれらてりやうさ

曰 友和

千早やうさ城れを志石とかな

曰 友和

秘水ありといふ山れ志はれらてりやうさ

曰 友和

海くか不かく福と千早にハ三石六汁ハいとい出中よ

約魚いり千早く城乃くゆ赤 長 政長

千早ふりどいやくもの本を花年 久住

律風う子早う珠すん花つくこ 芳昌

口あくらん江もらもやれ花年 立次

兵粮うらしもやう城く一 米橋 政云

千早うもやう千すてさらもれ花年 友和

きこみうや子早う珠のまうい草 辯愚

楠や又又立ふららもや一の城 何別呈名 正次

くもの本う千早て名宗時鳥 政云

火矢村あう子早う城よ花堂 歩月

夕うらや子早ふり海り軍村 一十

山人れ是ももらもやまらくも 忠正

子早うらうてさるも花年 正寛

楠うおらりはいひやらも炭 可角

子早うり雷や去珠山子も京 義之

千早ぬり祢乃以幣一う雷の竹 政云

泉しや二石ち汁一もりりも 如貞

車ふ花雷や千早う珠のうも 友好

らりもふふ雷く一れ海 埋葬 常政

○下乃赤坂楠の枚珠也

東より又十乃西三三十八間水三三六間南ハ山江ハ也

珠の長南山貳百四十三間横十五間ありおれは高は敷  
一万あり石炭もよむをわけて石といひ傳ゆり

天王寺石のも居九の柱に武藏守任人見の中恩は生年七  
十二赤坂の城向て武恩れあ討死行くと出く一首書付たり

むさうぬ老木れ榎朽ぬとせむらう名は若れ下にくくまうド

右の柱は相模守任人なる九郎資貞の嫡子孫内茶赤坂資忠生年十八歳父  
の死骸と枕うして同我場三命と止め畢ぬとすて一首書付たり

ゆくまう子と思ふ園よまきふん六の街の道るをん  
れ奇

とれれと忽あましくせりいなきをれわさうふれ城のまより

曰 は列山田 正利

山れ名は赤坂ふま八正まうの軍の血やりまよさうらん

曰 弘重

ひししくまうさうまうほいしき川れ人のや様の尻れあさう

曰 林成

旗久とさむ赤坂れ軍場と今ま風よまきすれれと

曰 赤坂れ川に柳の葉のらうとそ 政云

かのくま赤坂山れ秋風に敷一葉れ船やそれれふ

赤坂れうくひや今鶴あり也 吉綱

のむ人れ血赤坂やとあかん酒 周成

赤坂しやまうり色あうとと堂 重次

露霜れあうさうしかな守紅葉 久任

赤坂やまことと善乃むつの花 清勝

わさ ○甲丸坂

正音

日 名ありや言ふとこひきけりて甲丸坂の月とて保の

久任

志痛くありて甲丸坂の月とて保の

たふち甲丸坂の月とて保の

隆系り甲丸坂の月とて保の

の月とて保の

霧拂ふ甲丸坂の月とて保の

志こ保の月とて保の

○竹林

楠くわりの月とて保の

花の浪の月とて保の

○屏風塚

鹿野に旅宿や枕屏風つり

土巻わりの月とて保の

屏風塚の月とて保の

咲花の月とて保の

花の月とて保の

久くや花の月とて保の

花の月とて保の

山吹中の月とて保の

始ゆわりの月とて保の

可日流表

利光

仙野

及次

隆玄

伴次

利角

義之

政長

及次

吉方

金馬のつらつらさしむる屏風はり  
 初嵐のさしけや里かみひやふ塚  
 女帯花乃化粧不屏風に美  
 屏風塚に後や花野ふまつし  
 じやうふ塚くあはれいさくめ令息  
 甲吹や草とくめれ屏風塚  
 紅葉のいづれかしくらん屏風塚  
 屏風塚より花の香も非砂子  
 比ひ雪や白雉くならんと屏風塚  
 ○ 出合 おあひあはれ 流玉れ軍勢の平へ楠の葉  
おあひあはれ 三方よりあわ合くくひ軍は勝しふかりのさ

唯正

美水

重次

良長

可次

政長

義光

伊次

久任

正音

政弘

揚子此と望しあひほほ初秋にさるの萩建は出合を宗  
 初秋の天とくはるよか人のあひあ合のたかり月几輪書  
 出合くくあはれさくさかんのあ鼓草  
 歌くくあはれさくさかんのあ鼓草  
 出合くくあはれさくさかんのあ鼓草  
 出合くくあはれさくさかんのあ鼓草  
 出合くくあはれさくさかんのあ鼓草  
 出合くくあはれさくさかんのあ鼓草  
 出合くくあはれさくさかんのあ鼓草  
 出合くくあはれさくさかんのあ鼓草

浮洋

清信

政長

定廣

忠孝

好貞

無頼

飲池寺と河や出合カミ里離れ

夕くられるの河内川合ふ所

村の名れお合ハカミカミ川

人目あつて草花よも花はあふ

風や吹草お合お横の草はあふ

はあふといおあひひり深らるる

臥池のわ合や一向の草はあふ

〇一向の草はあふ

花軍大切一向の草はあふ

天と比とむらわやく月あつて

政云

正後

藤川

可圭

吉勝

正勝

唯心

良長

徳梅のささうけらや一向の草

風ふせも一向の草はあふ

へあく一向の草はあふ

一の草はあふ

一向の草はあふ

一れ草はあふ

蟬の草はあふ

萩や一向の草はあふ

〇酒堂寺本は花王持現也

良徳

良弘

林城

正信

眞休

易安

好昌

弘重

狂奇

名あり酒堂寺山てあふれあふ

澤久



河内方金剛山

南

西



○四見珠楠くまのしやう楠七郎城地之平をいりわたり町下

鹿下や嘯うなく世界れあひあひ

西乃人々々々あま飛蝶あまとすうやまは舞

重しうへ遠きいふ人々山さう

玉見れ珠へ夫入とすまうつ草

すまうつ草あひん乃山の月ひさり

出る月や四乃人々城の遠月かひ

○猫海山ねのうみ後徳六郎珠池たけのくろむね及次

貴賤たかひなくともあはく皆猫海山下にありあはれはれは年

曰 同

猫海山に一月もあはれ草草あはれ定りこり人々やあはれ人

曰 正之

猫海山人目見く乃かひ海の秘守鳴もろしあはれとさる

曰 法橋寺考

そらくとのりりる人々の木嵐の正もあはれ猫海山と那

去毎よ燒や灰もかみ猫海山

時くよ木の目よあはれや猫海山

花も雨よさうしとやあはれ猫海山

猫海山を軍一とやあはれとあ

咲花やあまさうらうつ秘とら山

猫海山乃花より胡蝶や嵐舞

月く雪花やまろい乃猫海山

そくくくハカク本に記し梅落山 性宜

鯉うく移し此れ山に二月月 梅落山 梅落山

梅落山は月の嵐や雲うき 重次

月れ嵐くきふかりきり梅落山 定頼

嵐草宿はくもくや梅落山 利常

村の紫もくもくや虎毛の梅落山 久任

化務あしなるや河白の梅落山 重継

雷ふ鳥のなまきやあまき梅落山 利房

○梅山 和国長崎 本守 九町下 意朝

梅山やうれ野老のしを夫念 清勝

花とやゆやまきとあふれ妹梅

○本乃山若一段の石小涌出ると云ふは山に足は

筆ハ八十八社在り筑高堂土面筑高

太ふ香花いふて切草梅中表屋下り廿八町上

受夕

花の寺狼藉者と批評しゆめど風うきりく人ぬやま

津次

夜はれ月いふしの雲あう山あはれりかぬお子と云ふ

鳥汁やあうきりかぬおんあ 清次

花よ氣うきやや人ぬ山梅 周永

あらしはよな人ぬおん梅花 依洋子

梅落りめし人ぬ山中心梅花 利常

今更らふらん心やれりもふぶらう  
 登らん本らんぬ山よ花のささ  
 咲花い本らんぬ山乃橋よふか  
 花れ本らんぬやまもくつひ句  
 未摘く本らんぬ山すん新茶が  
 月新し本らんぬ山の志くりり  
 未らう今本らんぬ山やもれ家  
 未らうやれらんぬ山乃葉に挿  
 是いさくもれぬ山今初れ音  
 大島小本らんぬ山乃橋うか  
 ○上乃赤坂平野の監城池也昔言乃跡にら

一之  
 光伯  
 如元  
 義元  
 二采子  
 忠貞  
 未如  
 友和  
 定久  
 政公

埋掘りて十八町水た考子山乃尾と堀切二丈  
 下ニ植を止めらまとい城落くうと  
 ふれもよとこりりといじつ城落  
 龍の着しゆまとい一音あつ水  
 ○楠正成石塔本堂より子早一川乃為よりり

周玄  
 友和  
 久任

種奇  
 くらせしむらもをうと楠石小なりそもかま心根  
 日  
 子早より身はのぞと朽せぬ楠石塔と成家にかまひ  
 日  
 挿りかこまろ海に沈掘ふ雨を嵐と海せぬ石塔

皇継  
 石塔

和奇

正利

酒さし小かんゆる石碑れ消せぬい夏やぬいのちりぬん

あま

世にさうすえんて今に後とぬい金剛山とくまの木のうらと

○ 鼓の尾水越峠下ろるるあまのうらとせんのうら也

ゆみう尾や嵐のうらとせんのうら也

まきう枝と夏やまきうのうらとせんのうら也

鈴虫のうらとせんのうらとせんのうら也

○ あ越峠金剛山とくまの木のうらとせんのうら也

ららのうらとせんのうらとせんのうら也

死るうらとせんのうらとせんのうら也

政云

清風

谷川

同

政云

光若

政云

